

中期事業計画（2022年度～2026年度）

短大部門
2021.12

目指す姿	現状の問題点・取組の必要性	課題の内容	具体的な取り組み内容	達成数値目標	実施年度
1. パイリンガル人材育成 「生活レベルの英語力 全専攻生が習得」	①楽しく・自然に学ぶ環境 ②世界の人とコミュニケーションをとる力 ③大学全体で取り組む ④英会話教育のデジタル化	①毎日英語30分聞く・話す ②海外英語研修の充実 ③英語を学びやすくする ④ICT・ロボットの導入	①2人のネイティブ教員の英語ラウンジの新設 ②生活文化専攻の海外英語研修必修(他専攻は推奨) ③学び直しコース・全専攻ワンポイント英語 ④4台ロボット・ICTを活用した英会話	週に30分×2ー60分ラウンジ会話 日常生活レベル(80%) 日常生活レベル(90%) 日常生活会話(100%)	2022～ 2022～ 2024～
2. デジタル・グローバル 地域社会で活躍できる 女性リーダーの育成	①社会の変化により企業が個人に求められるスキルの多様化 ②リーダーシップ(人を大切にする力)はグローバル化より必要となる ③短大教育の魅力づくり	①コーチング室の導入(2) ②地域キャリアコース ③グローバルコース ④デジタルキャリアコース ⑤教育コーチング	①パソコン・丸い机・カメラ・デジタル掲示板 ②グローバルに英語でICT・グローバル教養 リーダーシップ・地域ビジネスを学ぶ ③海外インターンシップ(2か月)英語でICT・ リーダーシップ・グローバルビジネスを学ぶ ④海外インターンシップ(2月)英語でICT プログラミングを学ぶ ⑤自己・グローバル・地域リーダーシップ授業	学生が互いに繋がり世界と繋がる空間 ①地域の地場産業を支えるリーダー ②地域のグローバル化を支える ③地域のデジタル化を支える高い 行動力	2022～ 2022～
3. AI力・リーダーシップ・ グローバル教養・英語力 育成(3専攻)	①楽しく自然にAIを学ぶ環境必要 ②楽しくグローバル文化に触れる ③日本人としてのアイデンティティ ④主体性・使命感・チャレンジ精神の育成 ⑤ICT活用能力 ⑥4ステップ教育方法導入	①技術学習・実習機会 ②異文化体験機会 ③ラウンジ地域文化体験 ④ラウンジコーチング ⑤ICTを活用した英会話 ⑥ラウンジコーチング導入	①AIラウンジとプログラミング授業を開始 ②外国の踊りや食事を体験出来るラウンジ ③日本人活動家と交流 ④コーチングラウンジを新設 ⑤毎日デジタル会話を提供それを先生と話す ⑥ラウンジにコーチングのスペースを新設	①ロボットと会話・動かす技術を学ぶ ②異文化に対する理解 ③地域文化理解 ④学生に週に30分のコーチング ⑤英語を学ぶ意欲 ⑥気軽に週30分全学生が受けられる	2022～ 2022～ 2023～ 2022～ 2022～ 2023～
4. 英語と日本語で学ぶ 生活文化専攻	①レベル4のグローバル人材育成	①多文化チームワーク ②英語の専門用語を学ぶ ③外国で学ぶ力 ④遠隔文化交流 ⑤遠隔語学研修 ⑥ラウンジの新設	①多国籍労働者がいる企業でインターンシップ ②専門・教養科目を英語で学ぶ ③国際ボランティア体験 ④ラウンジで海外の大学生と交流イベント ⑤外国の大学から遠隔英語授業 ⑥グローバルラウンジをザビエルホールで	①グローバルなチームワーク ②業務上の文書・会話の英語レベル ③留学準備 ④グローバルネットワーク構築 ⑥学内グローバル環境が整う	2023～ 2022～ 2023～ 2025～ 2022～
5. ICT・ロボット・教員を 活用した英語を話せる 環境	①ロボットプログラミング ②AIリテラシー教育 ③生活自動化研究	①オリエンテーション ②自己プログラミング学習 ③ラウンジプログラミング	①全学生に年度の始めに実施(3時間) ②ロボット4台とパソコン16台ラウンジに用意 ③昼休みに教員による指導(教員2人雇用)	①ロボットの使い方になれる ②全学生が週に30分×2ー60分使用 ③プログラミングに意欲	2022～ 2022～ 2022～
6. 全専攻AIリテラシー 7. 教育のデジタル化 8. 大学ネット環境整備 9. 地域参加型教育 10. 教育の深い専門性	⑥初級の推理・AIのリテラシー(6単位) ⑦デジタル掲示板導入 ⑧Wi-Fiの整備 ⑨地域の知識人が教育に参加 ⑩4年制大学開設を目指す	⑥楽しさと意義を伝える ⑦授業や会議のデジタル化 ⑧授業のデジタル化 ⑨地域ビジネス授業開始 ⑩生活文化の情報分野	⑥デジタルリテラシーラウンジ・新授業開講 ⑦授業・会議の資料をデータで提供 ⑧すべての教室にWi-Fi ⑨15回地域経営者の講義 ⑩ロボットプログラミング・デザイン・HP作成 デジタルセキュリティ・ICT・IOT・漫画動画	⑥デジタルリテラシーが身につく ⑦ペーパーレス教育 ⑧学生の学ぶ意欲の向上 ⑨地域の力に気づく ⑩聖霊情報学部	2023～ 2023～ 2023～ 2026～

中期事業計画（2022年度～2026年度）

短大部門
2021.12

目指す姿	現状の問題点・取組の必要性	課題の内容	具体的な取り組み内容	達成数値目標	実施年度
11. 業務の標準化	①業務量の削減と共有化 ②業務の効率化 ③情報伝達のデジタル化	①会議と資料のデジタル化 ②デジタル確認・打ち合わせ ③業務連絡のデジタル化	①ICTを活用した会議・資料のメール送信 ②資料・連絡・確認をメールで行う ③連絡・情報を電子掲示板で掲示	ペーパーレス大学 業務の効率	2023から
12. 学生サービスの充実	①化粧室の美化 ②個人研究空間の確立 ③売店 ④交通の便をよくする ⑤教室の整理	①女性が使いやすくなる ②図書館に冷房 ③受付に売店機能を作る ④ミニバスの購入（一台） 秋田駅～土崎駅空間 ⑤教室を少人数教育用にする	①廊下から室内を見えなくするなど ②夏にも静かな自習空間 ③9時～16時まで食べ物の購入を可能にする ④運転出来る用務員を雇用 「大学の休み期間は運休」 ⑤セミナールーム風に机の並び替え	①プライバシーの向上 ②一年中静かな実習空間 ③学校の収入の増加 ④大学の宣伝・知名度の向上 ⑤教員の教える意欲と学生の学習能力の向上	2023～ 2023～ 2024～ 2022～
13. ランニングコストの削減	①電気料金の節約 ②人件費比率は高い ③校務・事務職員の負担軽減	①使用頻度の高い教室の電気料金の削減 ②職員と教員の協働化 ③委託	①LED電球への切り替え ②事務・受付・就職支援室をまとめる ③草刈りなどの委託	①支出削減 ②人件費の削減・効率の向上 ③校務職員の教育の手伝い	2023～ 2025～
14. 大学の専門性の向上	①ICT・IOT・ロボットプログラミングの専門性の向上 ②公開研究発表会 ③教職員の研修	①博士号取得教員の雇用 ②公開デジタル授業作成 ③学内研修の充実	①教授になるには博士号を必要とする ②授業動画をYouTube・HPで公開する ③内部研究発表会	①大学の教育評価の向上 ②地域貢献 ③教員の研究能力の向上	2023～
15. 広報活動	①空港広告 ②YouTube広報 ③秋田市の中心部での広報 ④JR秋田駅広報 ⑤新聞広告 ⑥イベントの企画 ⑦HPの英語版の作成 ⑧国内外の他大学や高校等との連携	①手元に情報を届ける ②中高生に情報を届ける ③地域に情報を伝える ④高校生に魅力を伝える ⑤教育理論を伝える ⑥教育成果を伝える ⑦英語で学校を紹介する ⑧協力大学や高校を増やす ⑨サテライトオフィス	①英語と日本語の動画を作り魅力を伝える ②15秒のYouTube・CM全国に7ヵ月流す ③秋田市内に看板を設置 ④西口で全専攻と教育特徴のポスター掲示 ⑤教育についての科学的な記事 ⑥教育の楽しみと地域の文化に触れる ⑦日本語のHPに英語の内容を追加する ⑧聖霊会や世界の大学とMOUを交わす ⑨東京・名古屋・京都にオフィスを設ける	①大学の名前が世界中に広がる ②学生募集を全国に広げる ③教育の魅力を伝える ④様々な学びの選択の提供 ⑤大学の教育能力の公表 ⑥公開教育 ⑦学生募集を世界に広げる ⑧大学の教育力の向上 ⑨入試を受けられる場所が増える	2022～ 2023～ 2022～ 2022～